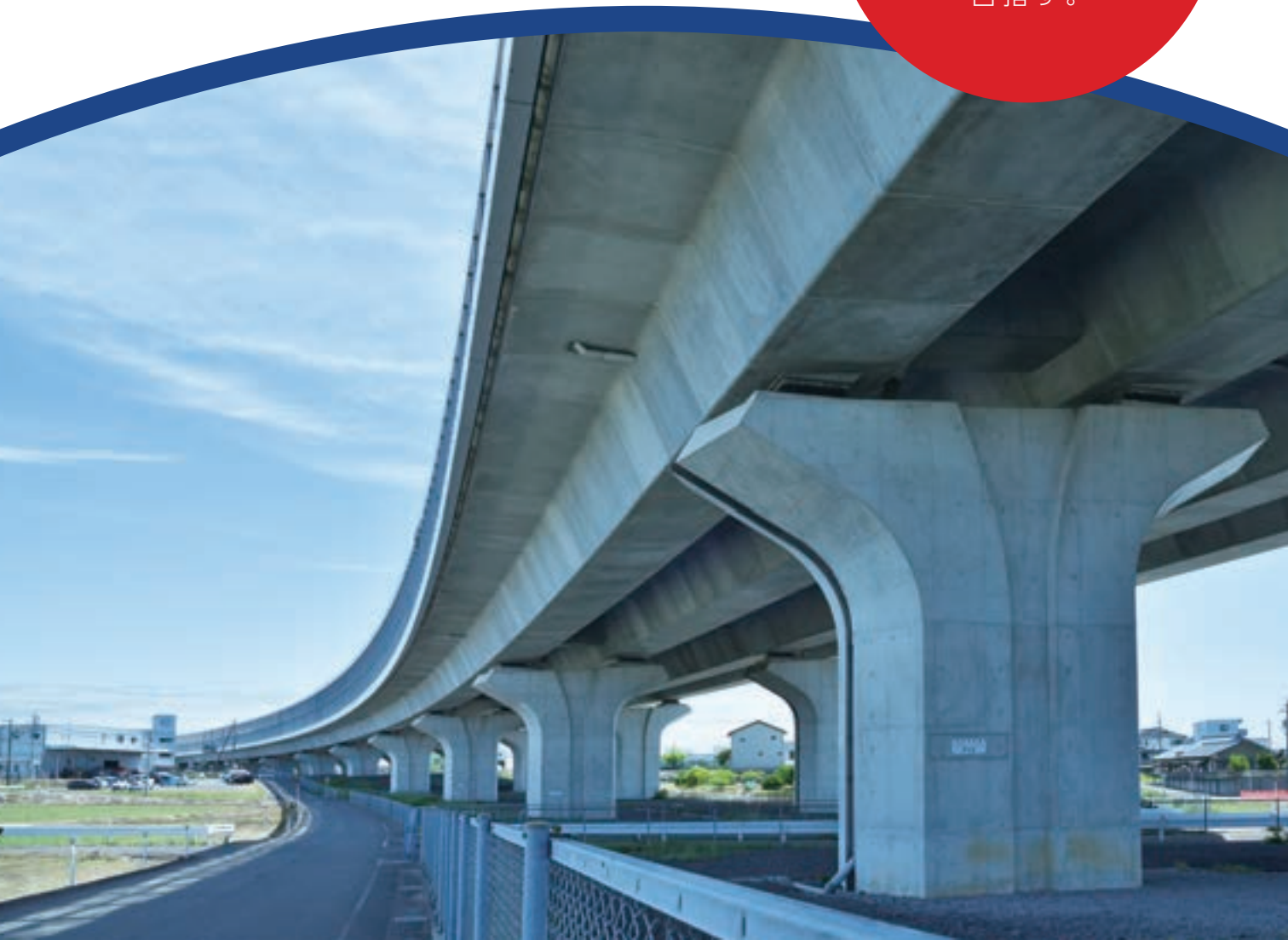


第74期 **株主通信**

2024年4月1日から2025年3月31日まで

人と技術を活かし、
常に社会から
必要とされる集団を
目指す。



トップメッセージ



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、
厚く御礼申し上げます。

ここに、2024年4月1日から2025年3月31日までの事業の概況
等についてご報告させていただきますので、ご高覧賜りますよう
お願い申し上げます。

代表取締役社長 大野 達也

当期の事業概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、海外経済が緩やかな成長を続けるもとで、緩和的な金融環境などを背景に、所得から支出への前向きな循環メカニズムが徐々に強まることが期待されることから、アメリカの通商政策等の影響による国内外の金融資本市場の変動等の不透明感はあるものの、全体としては、緩やかな回復基調にあるものと目されます。また、輸出入面において、持ち直しの動きがあるアジア・アメリカ向けの輸出取引に加え、概ね横ばい傾向にある輸入取引と併せて、今後先行きへの期待が高まる中、物価上昇の継続による消費者マインドの下振れが個人消費に及ぼす影響などに一層注意する状況が続いております。これら状況下で、改善している企業収益に基づく企業の業況判断も足踏み状態であることから、雇用・所得環境の改善の動きに期待しながら、慎重に総合的な動向を見定めようとする環境となっております。一方、公共投資につきましては、国の令和6年度一般会計予算の補正予算に

おいて約2.4兆円の追加予算が計上され、補正後は前年度比1.4%増となり、令和7年度一般会計予算の公共工事関係費でも、当初予算案は前年度並みの水準となっております。公共工事請負金額の年度累計も、対前年同期比46.4百億円増の103.2%の実績となっていることから、今後も底堅く推移していくことが見込まれております。このような状況におきまして、当社グループ全体で受注活動に取り組んだ結果、当連結会計年度の受注高は、650億8千5百万円(前年同期比3.9%減)となりました。前連結会計年度比で鋼構造物事業が増加となりましたが、建設事業、港湾事業で減少となりグループ全体として減少となりました。

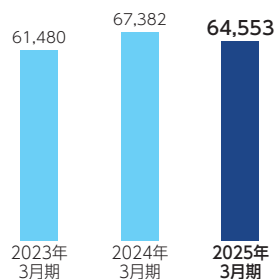
当社グループの当連結会計年度における売上高は645億5千3百万円(前年同期比4.2%減)となりました。各セグメントにおいて前年同期比で減少となりました。また、受注残高につきましては、上記の受注及び売上の状況により、987億2千4百万円(前年同期比0.5%増)となりました。

企業理念

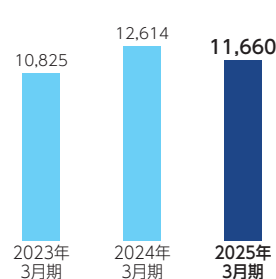
人と技術を活かし、
常に社会から必要とされる
集団を目指す。

連結財務ハイライト

売上高 (単位:百万円)



売上総利益 (単位:百万円)



当連結会計年度における売上原価は528億9千3百万円(前年同期比3.4%減)となり、売上総利益は116億6千万円(前年同期比7.6%減)となりました。売上高の減少に伴い、売上原価も減少となり売上総利益においても減少となりました。

当連結会計年度における販売費及び一般管理費は、試験研究費、諸経費の増加により62億2千5百万円(前年同期比2.4%増)となりました。営業利益は54億3千4百万円(前年同期比16.8%減)、経常利益は55億5千6百万円(前年同期比15.6%減)となりました。

当連結会計年度における親会社株主に帰属する当期純利益は、37億1千5百万円(前年同期比19.8%減)となりました。

今後の見通し

公共投資市場は、防災・減災、国土強靱化の加速化、整備新幹線やリニア中央新幹線、全国の高速道路の大規模更新工事及び4車線化といった事業が引き続き展開され、今後の建設需要は底堅い見通しであるものの、世界的なインフレの影響による鉄鋼や木材など建設資材の高騰、高齢化や若年層の入職者減少による人手不足の深刻化、時間外労働の上限規制に伴う協力業者を含めた人件費等の上昇等により、経営環境はより厳しさを増すことが予想されています。また、アメリカの通商政策の不透明感や地政学的な要因など今後の全世界的な動向についても不確実な要素が多く、より緻密でタイムリーな対応や戦略が求められるものと考えられます。

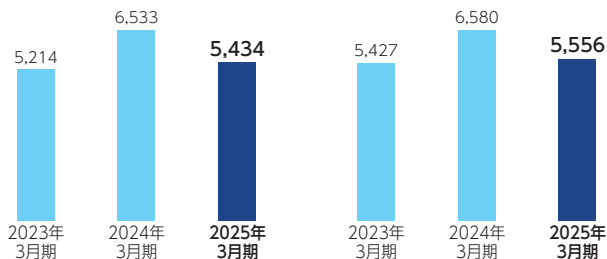
当社グループの2026年3月期の連結業績予想については、補修・補強分野の受注においては今年1月に発生した中国自動車道の事故の影響や競争の激化により受注量の減少が予想されるものの、

首都圏を中心とした大型ポンプ場等のニューマチックケーソン工事の発注が旺盛なことに加え、新たな連結子会社の受注を取り込むことにより昨年度を超える受注量を想定しております。引き続き、当社の得意とする技術や特化工法の採用を推進し選別受注に努めるとともに、グループ内のシナジーを活かし技術優位性が発揮できる難易度の高い工事にも取り組んでいきたいと考えています。

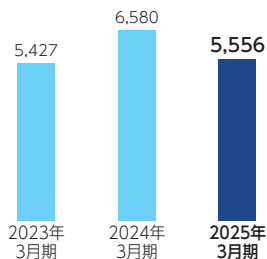
売上面では、前期からの豊富な繰越受注残高はあるものの、大阪モノレール、北海道新幹線工事などの一部大型工事の進捗の遅れやニューマチックケーソン工事の発注が想定よりも遅れている影響で、既存の基幹事業においては若干の減少になりそうですが、新たな連結子会社の売上を加え2025年3月期を超える売上高を確保する計画です。また、売上面に対する事故の影響ですが、大規模更新の継続工事の繰越受注残高が全社的に確保されており、該当工事及び同種工事における影響は総じて限定的になると考えています。利益面では、昨年実績を下回る見込みです。これは、大型工事の竣工に伴う設計変更による収益の押し上げが今年度は見込めないことや、大型ニューマチックケーソン工事については、着工後の早期段階の工事が多く最盛期は次年度以降になるため、今年度の利益率向上への貢献がそれほど期待できないことなどによるものです。DXの推進による生産性の向上等引き続き様々な施策で利益改善に努めてまいります。

当社グループは、今年度「中期経営計画2023-2025」の最終年度を迎えますが、今回発生した事故を教訓に「安全のオリ白」を全社一丸となって確立し、ケーソン事業を中心とした豊富な繰越受注量を強みとして、長期ビジョンである「オリエンタル白石グループ2030年の将来像」に向け挑戦と前進を続けます。

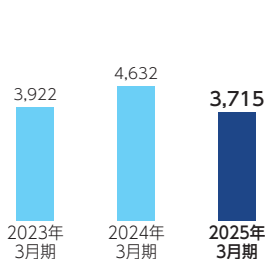
営業利益 (単位:百万円)



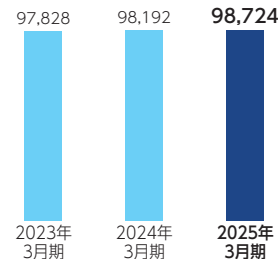
経常利益 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する
当期純利益 (単位:百万円)



受注残高 (単位:百万円)



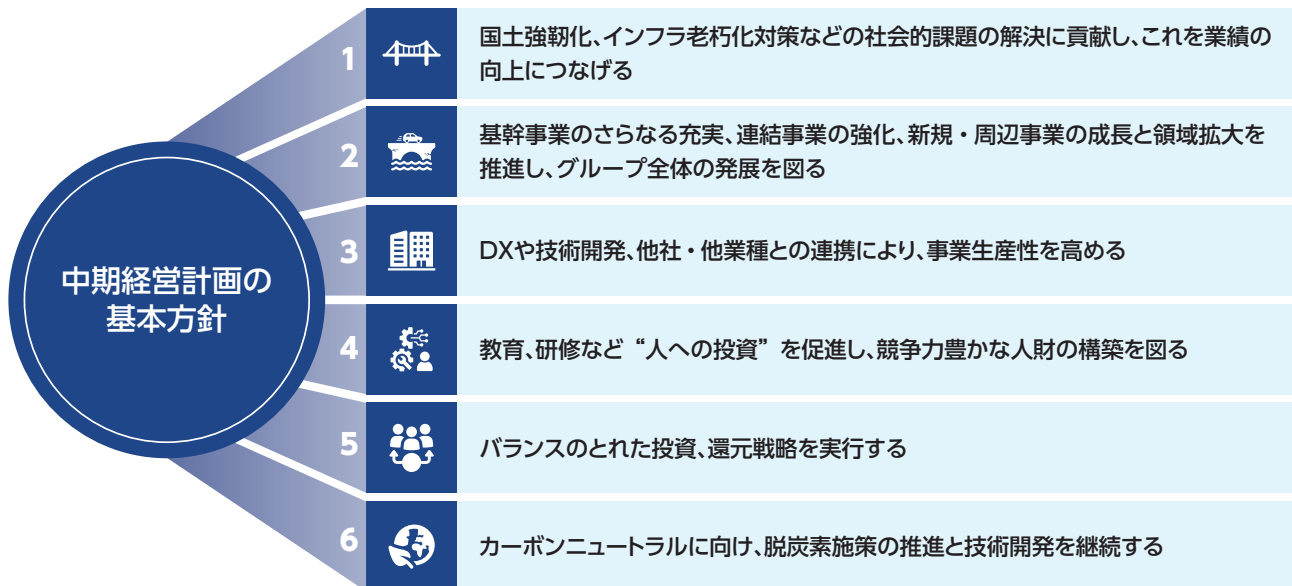
中期経営計画の概要

2030年の将来像

人財と技術の多様性を活かし、社会インフラ整備の様々な需要に応え、挑戦と前進を続ける企業集団



基本方針



投資戦略

基幹事業や連結事業（鋼構造物事業、港湾事業）の拡充と強化、新規・周辺事業の拡大を図る。

戦略実行に向けた組織、体制の強化

- 営業企画部の再編
- 経営戦略チームの新設
- 事業企画チームの新設
- 外部コンサルタントの活用
- 外部アライアンスの強化

新中期経営計画

(2023-2025年度)

投資総額

220億円規模

前中期経営計画

(2020-2022年度)

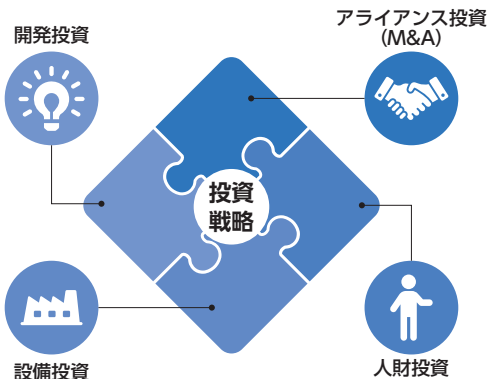
投資総額

120億円

投資実績

- 研究開発
- M&A投資
- 既存施設、保有機材更新

対象	総額
経常投資(既存事業継続投資)	50億円
成長投資(成長機会創出投資)	110億円
戦略投資(資本業務提携)	60億円



サステナビリティ戦略

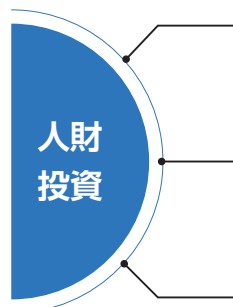
環境（カーボンニュートラルの実現に向けた取組み）

2030年度CO₂排出量削減目標とロードマップ(Scope1、2)

(基準年:2021年)	2021年度実績		2030年度目標
売上高	607億円		900億円
CO ₂ 排出量(Scope1、2)	18,673t-CO ₂		19,000t-CO ₂
売上高原単位	31t-CO ₂ /億円		21t-CO ₂ /億円
削減率			約31%
数値目標	2023-2025	2026-2028	2029-2030
	12%	24%	31%
データ計測充実			
削減対策			

- ① 管理評価の拡充、体制の確立
- ② 具体的な削減手法の試行
- ③ 外部イニシアティブの参画、活用

人財戦略：人財と技術の多様性を活かす働きやすさと働きがいのある魅力的な企業づくり



多様な人財の獲得・育成

- 多様なキャリア・経験者の獲得・育成
- IT人財の獲得・育成
- 個々の能力を最大限に引き出す能力開発
- グループ間での成長ローテーション

人財が活躍できる環境整備

- 多様な働き方・就業制度の整備
- 安心して働ける職場環境への取組み
- 安全な職務環境への取組み

人財のエンゲージメントの強化

- エンゲージメントサーベイ実施、分析
- 人事評価制度の見直し
- サクセッションプランの実践
- 人財データのクラウド一元管理

詳細は、当社ウェブサイトに掲載しております。

ウェブサイトURL : <https://ir.orsc.co.jp/ja/ir/management/plan.html>



業績ハイライト(中期経営計画の進捗)

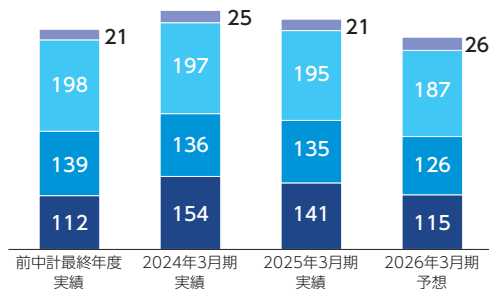
事業戦略の進捗

基幹事業

■ PC*土木 ■ ニューマチックケーソン・一般土木 ■ 補修補強 ■ PC建築

売上高

(単位: 億円)

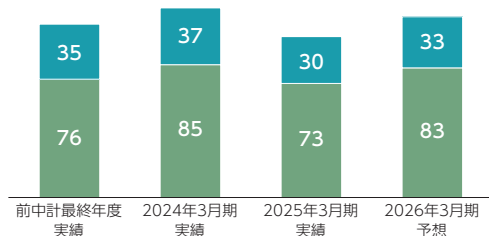


連結事業

■ 鋼構造物事業 ■ 港湾事業

売上高

(単位: 億円)

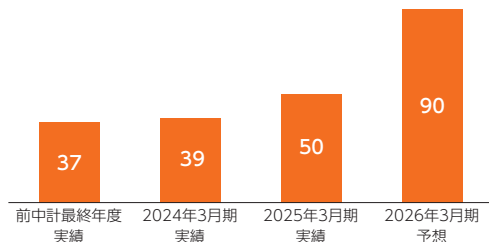


新規周辺事業

■ 新規・周辺事業

売上高

(単位: 億円)



2025年3月期実績

- 川袋小川橋、北勢第三高架橋3等の大型工事が竣工
- 江田川橋、水俣川橋等の大型工事も順調に進捗
- 上小山田立坑、笛吹川ケーソン工事等の大型工事が竣工
- 松島高架橋(その1)、富山立山間床版取替(その2)等の大型リニューアル工事が竣工
- 下部工耐震補強工事も順調に売上
- 愛知アリーナ、阪神タイガース2軍球場等、競技場・アリーナ関連のPCa*工事が竣工
- 大阪万博、民間建築工事関連のPCa*工事が竣工

2026年3月期予想

- 三遠南信3号橋、熊谷川第一橋等の大型工事が竣工
- 王子給水所配水池、新大宮上尾等の大型工事が竣工
- 江東ポンプ所、勝どきポンプ所等の手持ち工事でも順調に進捗
- 許田高架橋南、前田川橋等の大型床版取替工事が竣工
- 大型研究施設に採用されたPC*緊張工事が竣工
- 手持ちの大型防衛施設(武山教育施設)が着工

2025年3月期実績

- 手持ち工事の設計変更獲得で売上確保
- 元請新設橋梁、補修補強工事の進捗遅れにより、売上微減
- 中小規模の港湾、建築、土木工事で売上確保
- 単年度工事が多く、前期比で売上は減少したものの、利益は確保

2026年3月期予想

- 手持ち工事の設計変更獲得を図り売上確保
- 原価低減により利益向上を目指す
- 中小規模の港湾、土木工事を中心に売上確保
- グループシナジーによるPC橋梁工事に着工

2025年3月期実績

- 床版や桁等のコンクリート製品の外販売上
- 海外事業においては、インドネシアでのケーソン技術指導と機材リースとともに、アメリカの施工会社と当社開発工法の技術提供契約を締結
- M&Aにより3社を子会社化
- 太陽光発電、不動産賃料等を計上

2026年3月期予想

- インドネシアでのケーソン技術指導と機械リースを継続
- アメリカの施工会社との技術提供契約に基づいた支援の実施
- 伊藤忠商事との協業による床版や桁等コンクリートの販路拡大
- 官民連携橋梁インフラ維持管理の事業化
- M&Aにより買収した子会社の売上を伸ばすとともに、さらなるM&Aの推進

* PC(プレストレストコンクリート): 高強度の鋼材で圧縮応力を与えることにより補強したコンクリート。
軽量で高品質・高耐久
* PCa: 建設現場で組み立てることを想定し、工場等で事前に製造したコンクリート部材

投資戦略の進捗

区分	投資予定額 23.04-26.03	投資実績額 23.04-25.03	内訳	投資内容
経常投資	50億円	29億円	11億円	継続的な研究開発
			18億円	ケーソン設備・機材の更新
成長投資	110億円	69億円	43億円	地域戦略や事業領域の拡大
			4億円	施工の自動化、省力化の推進
			16億円	工場の製造能力強化、港湾工事の強化
			0億円	橋梁維持管理事業への投資
			6億円	人的資本への投資
戦略投資	60億円	11億円	6億円	PCaコンクリート製品製造の強化
			5億円	官民連携（橋梁維持管理事業）、地域戦略事業への投資 環境事業への投資

財務戦略(株主還元)の進捗

自己株式の取得

当社は資本効率の向上と経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の一環として、自己株式取得を実施、計画

2025/2/12 自己株式取得を実施

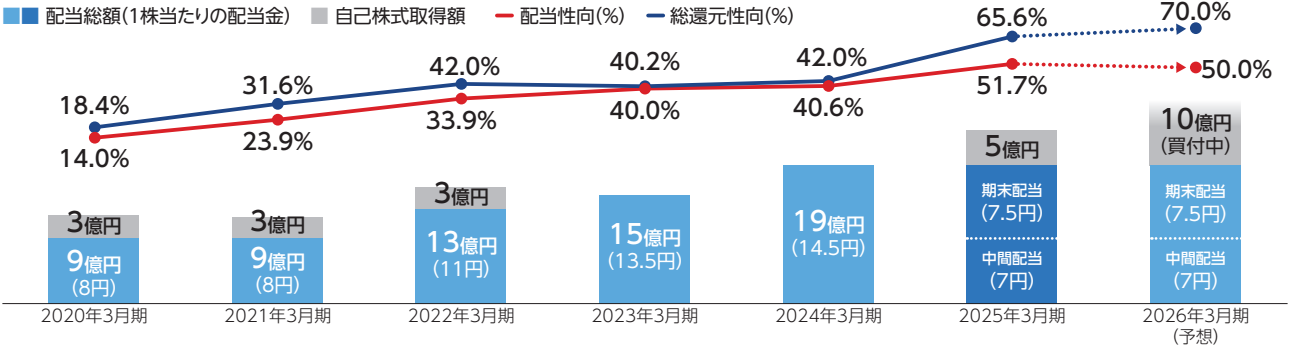
取得価格総額：5億円(上限) 取得終了日：2025/3/3

2025/5/13 自己株式取得を計画

取得価格総額：10億円(上限) 取得期間：2025/5/14～2025/7/31

今後の方針

資本効率の向上と経営環境の変化に対応した機動的な資本政策方針を推進



業績ハイライト(中期経営計画の進捗)

サステナビリティピック

外部格付機関による評価推移

FTSE Ruseell

	2022年度	2023年度	2024年度
評価	1.4／5.0	2.8	3.1

CDP (Carbon Disclosure Project)

	2022年度	2023年度	2024年度
CLIMATE CHANGE	C	B-	B
SUPPLIER ENGAGEMENT	D	D	—
WATER	—	—	C

※ 着実な活動と情報開示を進めたことによる評価向上

新たな環境データの収集と情報開示

過去3年間の廃棄物の最終処分量

	2021年度	2022年度	2023年度
総量(t)	9,061.1	13,508.1	11,186.7

過去3年間のリサイクルされた廃棄物の量

	2021年度	2022年度	2023年度
総量(t)	33,216.6	47,273.7	40,567.4

窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、揮発性有機化合物(VOC)の排出量の算定

温室効果ガスに加え、大気汚染防止法に基づく窒素酸化物、硫黄酸化物、更に揮発性有機化合物の事業における発生量を算定したので報告いたします。窒素酸化物、硫黄酸化物はグループ全社が使用した化石燃料から以下の式を用いて算定しました。

NOx、SOx酸化物=燃料使用量×単位発熱量(環境省v3-4(2))×排出係数(EF-JASSv2)

	2021年度	2022年度	2023年度
NOx(t)	169.2	176.9	148.5
SOx(t)	26.1	26.7	23.5

また揮発性有機化合物(VOC)に関しては、当社グループの事業形態では、建設機材で使用する塗料が該当するため、塗料使用量から不揮発分(70%)と溶剤(シンナー)使用量から算定しました。

	2021年度	2022年度	2023年度
VOC(kg)	19,659	25,364	24,912

これらの排出量は、今後その算定精度を高めるとともに、事業の成長を図りながら削減するように努めてまいります。

Scope3全排出量の算定

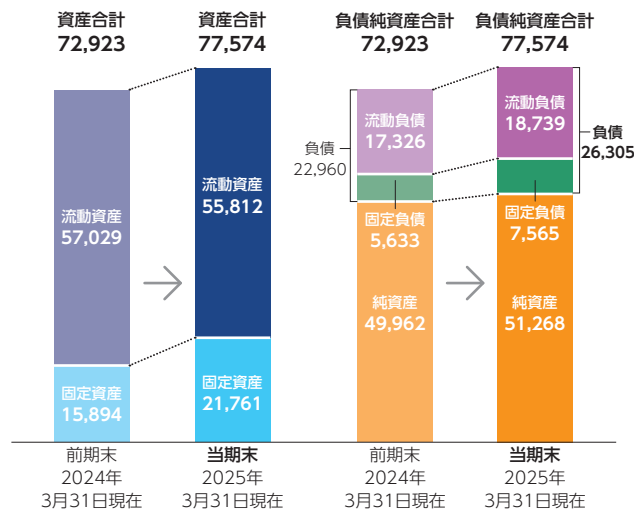
新たにカテゴリ9、11、12のデータ取得と算出を実施
但し、影響度は小さい

	区分	2021年度	2022年度	2023年度
Scope1		15,574	16,350	14,133
Scope2		3,064	2,938	3,307
Scope1,2 小計		18,638	19,288	17,440
Scope3	カテゴリ1:購入した製品・サービス	276,031	318,038	396,075
	カテゴリ2:資本財	8,159	6,563	4,523
	カテゴリ3:Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	1,170	2,858	2,604
	カテゴリ4:輸送、配送(上流)	2,458	4,007	1,294
	カテゴリ5:事業から出る廃棄物	1,250	6,026	4,127
	カテゴリ6:出張	93	93	100
	カテゴリ7:雇用者の通勤	247	246	264
	カテゴリ8:リース資産(上流)	非該当	非該当	非該当
	カテゴリ9:輸送、配送(下流)	非算出	非算出	3
	カテゴリ10:販売した製品の加工	非該当	非該当	非該当
	カテゴリ11:販売した製品の使用	非算出	非算出	564
	カテゴリ12:販売した製品の廃棄	非算出	非算出	92
	カテゴリ13:リース資産(下流)	非該当	非該当	非該当
	カテゴリ14:フランチャイズ	非該当	非該当	非該当
	カテゴリ15:投資	非該当	非該当	非該当
Scope3 小計		289,407	337,831	409,647
総量		308,045	357,119	427,086

連結財務諸表

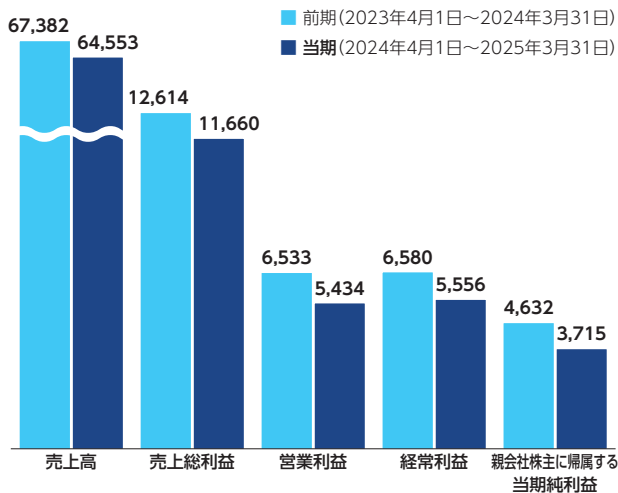
連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



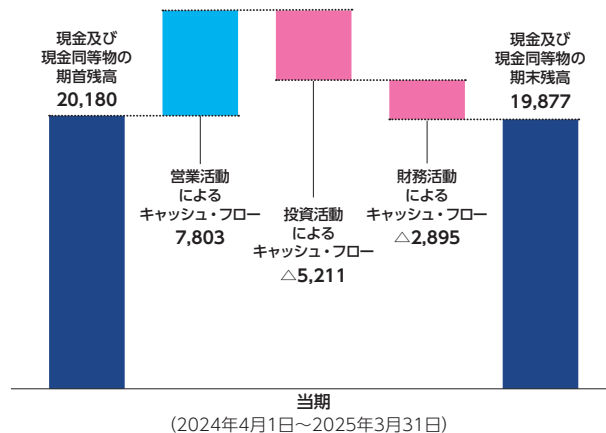
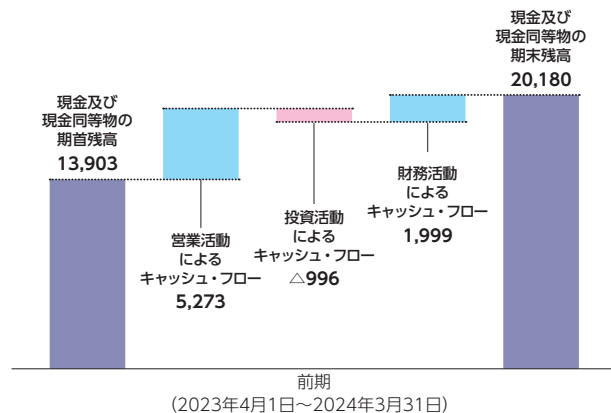
連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)





独自の工法と特化技術で社会基盤を創造する



ホームページのご案内
<https://www.orsc.co.jp/>



会社概要 (2025年3月31日現在)

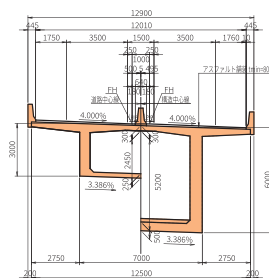
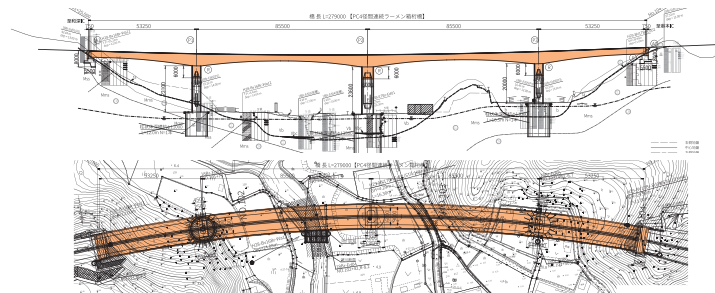
商号	オリエンタル白石株式会社
創業	1952年10月21日
資本金	50億円
従業員数	790名
事業内容	プレストレストコンクリートの建設工事及び製造販売、ニューマチックケーソンの建設工事、補修補強の建設工事、耐震補強建築工事の設計・施工、建設資材の販売、太陽光による発電事業及びその管理・運営並びに電気の供給、販売
所在地	東京都江東区豊洲五丁目6番52号
代表者	代表取締役社長 大野 達也

現場紹介 江田川橋概要

工事名称	すさみ申本道路江田川橋上部工事
工事場所	和歌山県東牟婁郡串本町江田地先
工期	2024年1月15日～2026年3月31日
発注者	国土交通省 近畿地方整備局 紀南河川国道事務所
請負者	オリエンタル白石株式会社 大阪支店
工事内容	本工事は、道路を保全し円滑な交通を確保するために、すさみ申本道路事業に係る橋梁上部工事を行います。
形式	PC4径間連続ラーメン箱桁橋
橋長	L=279.000m (桁長 L=277.500m)
支間長	L=53.250+2@85.500+53.250
有効幅員	1.750+3.500+1.500+3.500+1.750=12.000m



工事図面



移動式作業車
(ワーゲン)

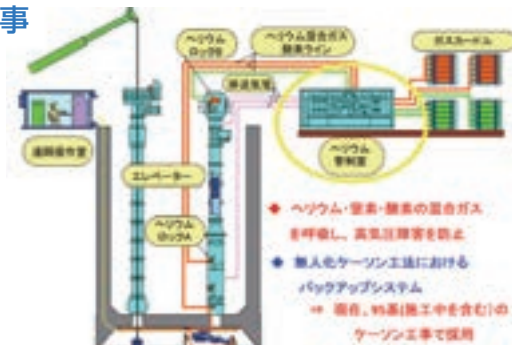


現場紹介 南部幹線防災・安全交付金(街路)P3橋脚工事

本工事は、熊本県八代市南西部の都市計画道路の南部幹線(1工区)外1線のうち、球磨川水系の1級河川前川に架かる橋長348.5mのP3橋脚の下部工をニューマチックケーソン工法で築造するものです。

また水深40m以深からはヘリウム混合ガスを使用する大深度ケーソン工事です。

工事名称	南部幹線防災・安全交付金(街路) P3橋脚工事
発注者	熊本県
施工者	オリエンタル白石・中山建設・八代港湾工業特定建設工事共同企業体
工事場所	熊本県八代市中北 地内
工期	2023年12月20日～2026年3月23日
工事内容	ニューマチックケーソン工法 下部構造：小判Φ10.1m×15.1m、H=37.0m 掘削面積：130.6m ² 掘削長：47.6m（沈下掘削土量：6,222m ³ ） 最大作業気圧：0.481MPa



ヘリウム混合ガス呼吸システム

減圧症の発症要因の一つは、体内に溶解した窒素ガスが減圧時に気泡化することです。『ヘリウム混合ガス呼吸システム』は、深海潜水技術を応用したもので、呼吸空気として窒素量を少なくし、ヘリウムを添加して酸素量を調整した「ヘリウム・窒素・酸素の3種混合ガス」を使用します。本システムにより水面下70mまでのニューマチックケーソンに対応可能です。

施工写真

1. 築島工



2. 刃口金物工



3. セントル工・足場工



4. 1リフト構築工



5. 掘削設備工 (天井走行ケーソンショベル)



6. 艀装・排土設備・ 沈下掘削工





日本橋梁株式会社

街と街、人と人をつ結び、次の100年へ



会社概要 (2025年3月31日現在)

商	号	日本橋梁株式会社
創	業	1919年7月7日
資	本	4,000万円
従	業	119名
事	業	橋梁等の鋼構造物の設計・製作・架設・保全工事
所	在	大阪府大阪市西区江戸堀一丁目9番1号
代	表	代表取締役社長 坂下 清 信

ホームページのご案内

<https://www.nihon-kyoryo.co.jp/>



現場紹介

令和2年度 沖縄自動車道(特定更新等)許田高架橋南他1橋床版取替工事(その2)

沖縄県北部の高速道路床版取替工事の5期目を現在行っています。

沖縄自動車道は沖縄返還後間もなくの1975年5月20日に許田IC－石川ICの区間が開通。当時はまだ右側通行で供用し、その年の7月30日に左側通行に変わりました。

最高速度は80km/h。海岸線から近い塩害地域のため、毎回鋼桁の腐食調査を実施してから工事に着手しています。

床版取替工事

交通量の比較的に少ない1月～4月間に高速道路上下線の片側2車線を24時間通行止めにして、橋梁床版のRCコンクリートを撤去し、プレキャスト床版の架設を昼夜実施しました。許田高架橋では鉄筋の代わりに炭素繊維複合ケーブルを用いた“非鉄床版”を高速道路において初導入しています。

その他の工事内容

塗替塗装、FRP検査路設置、橋脚部の断面補修・表面保護工、排水装置取替、油水分離ますの設置など



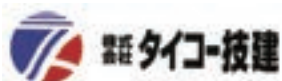
全景



夜間架設の様子



床版ブロック



確かな技術力をもとに、総合サービスでお応えします。



ホームページのご案内
<https://taikoh-giken.co.jp/>



会社概要 (2025年3月31日現在)

商 号	株式会社タイコ-技建
創 業	1971年2月1日
資 本 金	2,000万円
従 業 員 数	41名
事 業 内 容	建設機材の設計・製作、建設機械の維持管理、設備工事・技術サポート、 建設工事(ニューマチックケーソン、橋脚耐震補強 等)
所 在 地	茨城県つくば市緑ヶ原一丁目1番地2
代 表 者	代表取締役 松野 明 浩

現 場 紹 介 和食川橋P3ケーソン工事

国道55号高知南国道路は、高規格道路網を構成する自動車専用道路として整備される高知東部自動車道の一部であり、四国横断自動車道及び阿南安芸自動車道と一体的に機能することにより、「四国8の字ネットワーク」を形成します。

高知南国道路の全線開通により、高知市と芸西村はこれまでより5分短いおよそ50分で行き来ができるようになり、災害時には救命活動や救援物資を運ぶ“命の道”としても活用されます。

本工事は、上記事業のうち、和食川に架かる道路のP3橋脚をニューマチックケーソン(スリム工法)にて施工されたものです。



全景(同社施工部)



基礎完了

工 事 名	令和5-6年度南国安芸道路和食川橋下部P2,P3,P5工事
発 注 者 名	四国地方整備局 土佐国道事務所→大旺新洋株式会社
工 事 場 所	高知県安芸郡芸西村和食
工 期	2023年11月22日～2025年3月31日
実 施 工 期	2024年3月25日～2024年10月30日
工 事 概 要	<ニューマチックケーソンの概要> P 3 橋脚ニューマチックケーソン(スリム) 1基 円形φ6.6m 掘削面積34.2m ² 沈下掘削長24.030m ケーソン構築高24.500m 最大作業気圧0.205Mpa



工事完成(全景)



工事完成(近景)

山木工業株式会社

地域のインフラ維持に貢献

港湾・土木・建築工事を営む総合建設会社



ホームページのご案内

<https://www.yamakiind.jp>



会社概要 (2025年3月31日現在)

商号	山木工業株式会社
創業	1941年4月1日
資本金	6,000万円
従業員数	77名
事業内容	港湾・土木・建築工事、省エネ建材の販売
所在地	福島県いわき市平谷川瀬三丁目1番地 4
代表者	代表取締役 小峰 良介

現場紹介 夏井川水系地域治水プロジェクト参画

本工事は、令和元年東日本台風で被災した夏井川中流域の改良復旧事業や河道掘削、堤防機能強化などの治水対策を行う工事です。

夏井川河川工事は1～14工区に分かれており、山木工業株式会社では4工区を施工しています。そのうち2、4、9工区が竣工、現在11工区を2026年3月竣工に向けて鋭意施工中です。

工事名称	河川災害復旧助成工事(掘削工)
発注者名	福島県いわき建設事務所
工期	2020年12月～2026年3月
工事概要	2工区 施工延長L=940.0m 河道掘削V=65,599.7m ³
	4工区 施工延長L=1,009.0m 河道掘削V=167,268.1m ³
	9工区 施工延長L=600.0m 河道掘削V=187,686.3m ³
	11工区 施工延長L=750.0m 河道掘削V=198,590.2m ³



9工区施工前



9工区竣工

<ICT建機による施工状況>





“建設産業を若者の人気職業へ”

新たな建設産業プロモーション事業の確立と成長への挑戦



ホームページのご案内

<https://creative-land.jp/>



会社概要（2025年3月31日現在）

商 号	株式会社クリエイティブ・ラボ
創 業 日	2021年11月1日
資 本 金	1,000万円
事 業 内 容	建設業プロモーション、企業ブランディング、 コンテンツ制作、Webサイト運営
所 在 地	東京都江東区豊洲五丁目6番52号
代 表 者	代表取締役社長 岩 本 靖



トピックス 企業設立から3年目で単年度黒字化達成

2021年11月に設立した株式会社クリエイティブ・ラボは、「CREATIVE LANDプロジェクト」活動3年目となる2025年3月末に当初の目標であった単年度黒字化を達成することができました。新たな建設産業プロモーション事業を確立させ継続し、オリエンタル白石グループ、協力会社のみならず、社会インフラを支える建設産業を持続可能な産業とするために、さらなる成長へ挑戦します。

受賞紹介 国土交通省北海道開発局「建設業の魅力発信！動画コンテスト」優秀賞

2025年3月に国土交通省北海道開発局が主催する「建設業の魅力発信！動画コンテスト」において、制作した動画が優秀賞を受賞しました。また、日経コンストラクション2024年6月号に特集が4ページ掲載されるなど、同社の活動が評価されてきました。

「CREATIVE LANDプロジェクト」は、建設業界のイメージアップと建設企業の認知度向上を目指して、日々活動しています。昨年度新たにスポンサー企業としてかんぽ生命が参画するなど、現在約380社の協賛パートナー企業とともに、建設産業の魅力を広めるために、情熱と創造力を持って取り組んでいます。



第3回国土交通省北海道開発局「建築の魅力発信!動画コンテスト」表彰式

グループ会社紹介



ポンプ場、ニューマチックケーソン、トンネル工事等の、掘削施工を行う専門会社として
1973年9月に神奈川で創業しました。

45年以上の施工実績と経験により生まれた歴史があります。



ホームページのご案内

<https://creative-land.jp/company-detail/17>



会社概要 (2025年3月31日現在)

商号	株式会社菊政工務店
創業	1973年9月10日
資本金	1,000万円
事業内容	ニューマチックケーソン工事を主体とした土木工事、とび・土工事業
所在地	神奈川県横浜市青葉区荏田西1-9-16
代表者	代表取締役 菊地 省三

期待する事業効果とシナジー

- ◆今後予測されるケーソン事業の新規大型案件や高難易度の工事等に対応する「ケーソン事業基盤の強化」
- ◆当社、タイコー技建と連携したケーソン施工、整備能力の強化及び菊政の遊休解消
- ◆当社のグループ会社となり菊政における安定的な事業量の確保、事業領域の拡大、採用活動の強化等に期待



大地に子供たちの未来を築く

技術・信頼・貢献

街づくり、国土づくりのプロフェッショナル



ホームページのご案内

<http://www.sakae-hg.co.jp/>

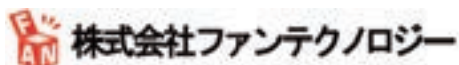


会社概要 (2025年3月31日現在)

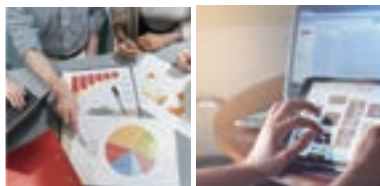
商号	株式会社栄開発
創業	1985年4月2日
資本金	5,000万円
事業内容	土木請負工事、建設機械リース業、建設材料販売など
所在地	岩手県北上市村崎野22-154-4
代表者	代表取締役 門馬 弘幸

期待する事業効果とシナジー

- ◆当社及びグループ会社である山木工業の元請受注への効果
- ◆当社コネクションを活用した下請営業の強化
- ◆新規現場ゼネコンとのリレーション構築
- ◆ケーソン支援事業への進出



一人でも多く『FAN』を増やすために
機械、IT、電気電子の分野で様々な業界の企画、研究、設計開発、
製造及び販売を行うエンジニアリングベンチャー企業です。



ホームページのご案内
<https://fan-technology.com/>



会社概要 (2025年3月31日現在)

商 号	株式会社ファンテクノロジー
創 業	2012年11月21日
資 本 金	3,000万円
事業内容	自社プロダクツの開発、製造及び販売事業、メカニカルデザイン・ソフトウェアに関する委託研究開発事業、労働者派遣事業法に基づく特定労働者派遣事業
所 在 地	栃木県宇都宮市東宿郷4-1-11
代 表 者	代表取締役 江 田 豊

期待する事業効果とシナジー

- ◆ソフトウェアの商品化に向けた本株式取得による財務支援
- ◆ケーソン自動化運転等の技術開発にかかる委託先の確保
- ◆持続的な技術開発に向けた内製化の実現
- ◆相互の技術交流による技術開発に携わる人財の育成



信頼と確かな技術で安心な未来を築く。
コンクリートの再生、補修、補強など、コンクリートに関わる課題は、
信頼と確かな技術でデンカリノテックがお応えいたします。



ホームページのご案内
<https://www.denka-remotec.co.jp/index.html>



会社概要 (2025年3月31日現在)

商 号	株式会社デンカリノテック
創 業	2001年7月4日
資 本 金	5,000万円
事業内容	コンクリート構造物の調査・診断及び補修・補強、設計コンサルタント・補強技術に特化した工事・コンクリート建造物の補修・補強工事に使用する特殊材料販売など
所 在 地	東京都中央区日本橋小舟町11-7
代 表 者	代表取締役社長 土 門 弘 明

期待する事業効果とシナジー

- ◆今後も市場拡大が予測されるインフラメンテナンス事業の拡充
- ◆コンクリート構造物の長寿命化、補修に寄与する特殊技術の強化
- ◆当社保有の補修補強技術の活用による売上の成長

株主アンケート結果

2024年12月から2025年1月に実施した「株主アンケート」におきましては、数多くの株主様よりご回答を頂戴いたしました。ご回答いただきました株主の皆様におかれましては、お忙しい中ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

なお、頂戴いたしました株主様からの貴重なご意見・ご要望等につきましては、今後の経営やIR活動等の参考にさせていただきたいと存じます。

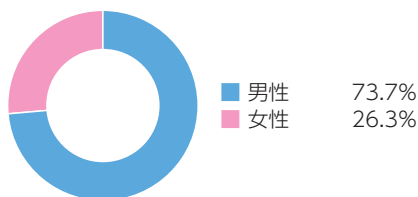
以下に、今回の「株主アンケート」の結果についてご報告させていただきます。



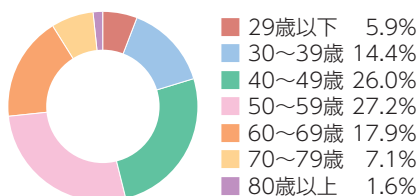
「株主アンケート」概要

アンケート方法	WEBでのアンケートを実施（「中間株主通信」に概要を掲載）
アンケート対象者	2024年9月30日時点 株主名簿記載の株主様
アンケート対象人数	29,810名
アンケートご回答数	3,455名
アンケートご回答率	11.6%

ご回答いただきました株主様の性別



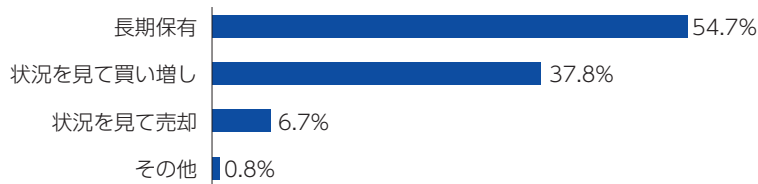
ご回答いただきました株主様の年代



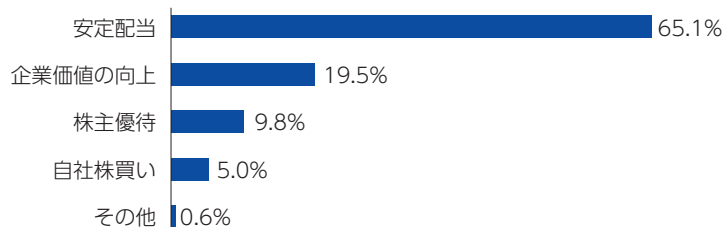
Q 当社株式を購入された際、重視されたポイントをお選びください。 (複数回答)(上位5位)



Q 今後の当社株式に関して、あなたのお考えに近いものをお選びください。



Q 今後、株主還元として、当社に最も期待することは何ですか？



企業情報

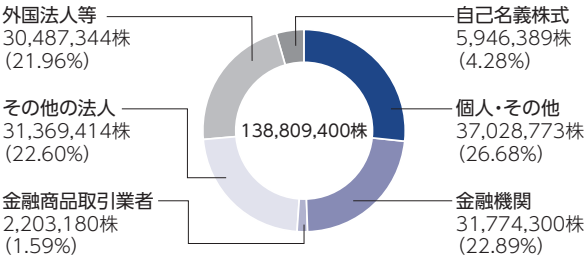
会社概要 (2025年3月31日現在)

商 号	オリエンタル白石株式会社
	 オリエンタル白石株式会社
創 業	1952年10月21日
資 本 金	50億円
従 業 員 数	(連結) 1,145名 (単体) 790名
事 業 内 容	・プレストレストコンクリートの建設工事及び製造販売 ・ニューマチックケーソンの建設工事 ・補修補強の建設工事 ・耐震補強建築工事の設計・施工 ・建設資材の販売 ・太陽光による発電事業及びその管理・運営並びに電気の供給、販売
所 在 地	東京都江東区豊洲五丁目6番52号
U R L	https://www.orsc.co.jp/
上場証券取引所	東証 プライム市場
主要取引銀行	株式会社三菱UFJ銀行 株式会社三井住友銀行 株式会社みずほ銀行 三井住友信託銀行株式会社 株式会社りそな銀行

株式の状況 (2025年3月31日現在)

発行可能株式総数	138,809,400 株
発行済株式の総数	138,809,400 株
株 主 数	30,256 名

所有者別状況



取締役 (2025年6月25日現在)

代表取締役社長	大 野 達 也
取 締 役	正 司 明 夫
取 締 役	橋 本 幸 彦
取 締 役	水 野 敏 昭
取 締 役	照 井 満
社 外 取 締 役	加 藤 英 明
社 外 取 締 役	酢 谷 裕 子
社 外 取 締 役	森 永 博 之
社 外 取 締 役	磯 和 春 美
取締役(監査等委員)	長 澤 明
社外取締役(監査等委員)	小 島 公 彦
社外取締役(監査等委員)	千 葉 直 人

大株主 (2025年3月31日現在)

株 主 名	持株数(千株)	持株比率(%)
伊藤忠商事株式会社	23,057	17.35
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	18,066	13.59
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	9,331	7.02
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	5,933	4.46
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	3,752	2.82
JP MORGAN CHASE BANK 385632	2,579	1.94
J.P. MORGAN SECURITIES PLC FOR AND ON BEHALF OF ITS CLIENTS JPMSP RE CLIENT ASSETS-SEGR ACCT	2,000	1.50
オリエンタル白石社員持株会	1,982	1.49
MSIP CLIENT SECURITIES	1,981	1.49
株式会社日本カストディ銀行(年金信託口)	1,645	1.23

(注) 持株比率は、発行済株式総数から自己株式を控除した株式数を分母に用いて算出しております。

WEBサイトのご案内

QRコード



最新のIR情報など、様々な情報を提供しておりますので、ぜひご覧ください。

オリエンタル白石

検索

<https://www.orsc.co.jp/>



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 その他必要があるときは、取締役会で決議し、あらかじめ公告する一定の日 中間配当金 9月30日 期末配当金 3月31日
公告方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告は、日本経済新聞に掲載して行う。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関 (同連絡先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (郵送先)〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 ☎ 0120-232-711

表紙写真について

工事名：第二東名高速道路 安城高架橋(PC上部工)工事
工事場所：愛知県豊田市和会町～吉原町
施工会社：オリエンタル白石・IHIインフラ建設JV
(当時：オリエンタル建設・ピーシー橋梁JV)
発注機関：日本道路公団 中部支社
(現：NEXCO中日本 名古屋支社)



単元未満株式の買取制度について

当社では証券市場で株式を売買できる取引単位(単元株式)を100株とさせていただいており、単元未満株式(1～99株の株式)については、証券市場においては売買することができません。

そのため、ご所有の単元未満株式を当社が買い取らせていただく制度(単元未満株式の買取請求)がござります。

単元未満株式の買取請求に関するお手続きの詳細については、お取引先の証券会社等(口座管理機関)にお問い合わせのうえ、お手続きください。また、特別口座に記録されている単元未満株式の買取請求をされる場合は、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社に お問い合わせのうえ、お手続きください。

単元未満株式の買取制度を利用

単元未満株式を当社に対して市場価格で売却する制度です。

具体例

50株	50株
50株	買取制度をご利用 ↓ 当社に50株売却
50株をお持ちの株主様	現金化
	¥ ¥ ¥ ¥ ¥



〒135-0061 東京都江東区豊洲五丁目6番52号(NBF 豊洲チャンネルフロント)
TEL.03-6220-0630 FAX.03-6220-0641 URL.<https://www.orsc.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC®認証紙を使用しています。